



刈谷南中学校新聞

第431号 令和7年 7月 1日
刈谷市立刈谷南中学校
刈谷市住吉町2丁目1番地
電話0566-21-0025

「生徒の主体的な取組」～KMP・生徒会サミット～

校長 葉山 靖彦

“かりなんトークにおける『よりよい反応』とは何か” 6月23日（月）授業後に行われたKMP（生徒議会）※1で学習委員会から提案されたテーマです。「かりなんトーク※2」は、聞き手が話し手の伝えたいこと、思っていることを理解しようと『おたずね』をしながら、深めていくのがポイント。この日は、どんな反応をしたら話し合いが活発になるのか意見を出し合っていました。日頃の授業の様子を見ていても、かりなんトークの経験を生かして、自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いて『おたずね』をしながら考えを深めたり広げたりする様子が見られます。KMPが中心となり、さらにお互いを理解しよう、気持ちよく活動できるようにしようと考えてくれる姿を頼もしく感じます。

6月20日（金）には「刈谷市中学校生徒会サミット」が依佐美中学校で行われました。本校からも7人の生徒会執行部の皆さんが6つのグループに分かれ、「よりよい学校」の実現のため、「企画」「主体的」「学校生活」の面から意見交換をしました。日頃から、「よりよい学校づくり」を目指して活動している生徒会の皆さんだけに、これまで取り組んできた活動をもとに、たくさんの意見を発表していました。また、かりなんトークの経験を生かして、グループでの話し合いを盛り上げたり、深めたりする様子も見られました。他の学校の取組も吸収して、新しい取組に生かしていこうと意気込んでいました。これからの活躍が楽しみです。



KMPで発言する委員長

生徒会サミットで刈南中の取組を紹介

※1：KMP（生徒議会）

生徒会執行部、各学年学級代表、各委員会委員長が集まり、それぞれの活動を紹介するとともに、「刈南魅力化プロジェクト（KMP）」として、どんな活動に取り組んでいくかを意見交換する場

※2：かりなんトーク

毎週月曜日の朝、10分程度。4人程度のグループで身近なテーマをもとにそれぞれの考えや思いを伝え合う。相手がどんなことを伝えたいのか、聞き手が「おたずね」をするのがポイント。

たくさんの参観ありがとうございました

6月4日（水）に、部活動参観を実施しました。部活動顧問から練習試合や大会参加についての話や購入していただく用具等についての話、部活動経営についての説明がありました。多くは新1年生の保護者の方でしたが、2・3年生の保護者の方にもたくさん参観していただき、大変有り難かったです。各部活動のふだんの活動の様子を見ていただくよい機会でした。お忙しい中、足を運んでいただき、ありがとうございました。



市長杯大会～水泳競技

6月7日（土）に刈谷市長杯大会の水泳競技が行われました。刈谷南中学校から参加した4名の選手は、それぞれ力を発揮することができました。なかでも江角颯真さん（3年）の100mバタフライのレースは、大変白熱した大接戦を制した逆転勝利のレースとなりました。

1位 400m自由形 江角 颯真

1位 100mバタフライ 江角 颯真



交通安全集会～谷川萌々子選手とともに

6月9日（月）交通安全集会を行いました。登下校時の交通マナーは南中の課題です。生徒の問題意識を高めようと交通安全委員会が企画をしたところ、刈谷警察の1日署長として、女子サッカー日本代表の谷川萌々子選手が来校してくれることになりました。谷川選手から左右の安全確認、一旦停止の心がけについて話を聞いたり、サッカーのリフティング対決で交流をしたりしました。集会の後には、谷川選手と交通立ち番と一緒にやって、登下校時の安全確認等の啓蒙活動を行いました。交通安全に対して、今後とも全校で取り組んでいきたいと思います。



自分の好きなことを大切に

6月11日（水）に「南中の先輩から学ぶ会」を開催しました。今回は、サンフレッチェ広島レジーナに所属するプロサッカー選手の石田ひなはさんが来校しました。石田選手から、「夢があるという人はいますか」という投げかけに対して、半数以上の生徒が手を挙げる姿があり、集中して話を聞くことができました。そして、「苦手なことにフォーカスするよりも、自分の得意なことや好きなことに力をそそぐといい」というメッセージをもらいました。石田選手がかつて所属したサッカークラブで、その背中を追って練習に励んでいる敷島瑠璃さんによる花束贈呈の後、全校生徒とハイタッチをして石田選手にもエールを送ることができました。



チームワークの指標に

今月は、全校生徒で集まる場面が何度かありましたが、6月20日（金）の学校集会でも全校生徒による大きな拍手が沸き起こりました。生徒会役員に対して労をねぎらい、生徒会サミットへ参加する激励の意味の拍手。「称賛されること」で自己肯定感が高まることはもちろんですが、「称賛すること」ができる南中生の姿がすばらしかったです。称賛できる姿は、チームワークのよさの見える化ではないかと思いました。

